

二五、貫通瞬時の喜び

トンネルの貫通

長いトンネルにとつて、導坑の貫通と云ふことは、完成の前觸とも云ふべきものであります。併も今迄兩方の口から、お先眞暗で掘つて居たのが、最後の一瞬の爆破で、御互に顔が合はせられる譯ですから、トンネル工事に従事する者にとつては、貫通はトンネルの完成以上に感激の多いことなのであります。殊に丹那トンネルの様に多年に亙り、苦心に苦心を重ねたトンネルでは一層其の喜びは大きいのであります。

大正七年以來十六年掛りの丹那トンネルも、漸く貫通することになりました。水抜坑の貫通は昭和八年六月十九日、底設導坑の貫通は昭和八年八月二十五日であります。

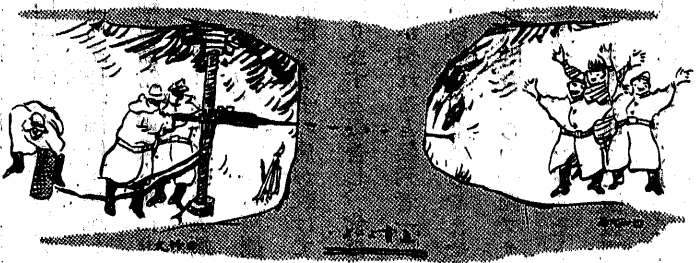
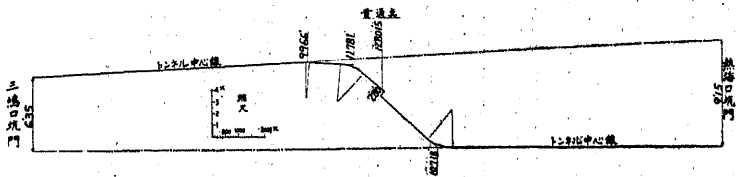
貫通地點は水抜坑も、底設導坑も丁度トンネルの中央です。特別にかうなる様にした譯ではないのですが、東西兩口の進行が、丁度中央を貫通點にする様な工合になつたのです。これは何でもないことの様ですが工事上からは非常に好都合でした。長いトンネルは普通、兩口から掘りたいのと、排水關係とから、兩口から中央に向つて、上り勾配にし眞中邊で、「おがみ合せ」にします。丹那トンネルも大體さうなつて居りますが、若しかう云ふ場合に、一方の口からの進行が他方より、うんと遅れて、片方の口から逆に下り込みに、掘進しなければならなくなると、排水其他の關係からとても厄介になります。殊に丹那トンネルの様に湧水の多い處では難澁するでせう。處が東西

口の進行工合が盲く歩調が揃つて、殆んど同じ頃に真中で出會ふことになつたのは、全く幸運でした。

底設導坑貫通の結果は、方向の喰違ひが約二、八呎、高さの差が〇、二呎、距離は一〇、七五呎縮まりました。尤もトンネルは伊豆地震の結果、東西両口が中央で圖面で示した様に八呎位喰ひ違ひましたから、之を取付ける爲に中央近くで方向を三島口では北に、熱海口では南に夫夫約七度ふつてあります。

六月十九日

本年の五月頃になつてトンネルの残尺が段々と縮まり、向ふ口の發破がそろそろ聞え出して來ました。もうかうなると、働く者の心はやはり出します。監督者も毎日の残尺が氣になり、急に現場が活氣づいて來ます。六月初め頃になつて愈々残尺も約三百呎と縮まりましたので貫通日を二十五日と決定して諸種の準備を整へ、一日一日と其の日の近づくのを待つて居ました。然るに貫通點近くになつて、急に熱海口の地質が變り意外の進行を續けましたので、六月十七日になつて、早や残尺が三十呎となつてしまひました。あわてたのは監督者です、急に豫定を繰上げて十九日貫通と定め、十七日午後七時残尺と方向とを確める爲、三島口からデンプー鑿岩機でボーリングをやつて見ました。測量には絶對の自信



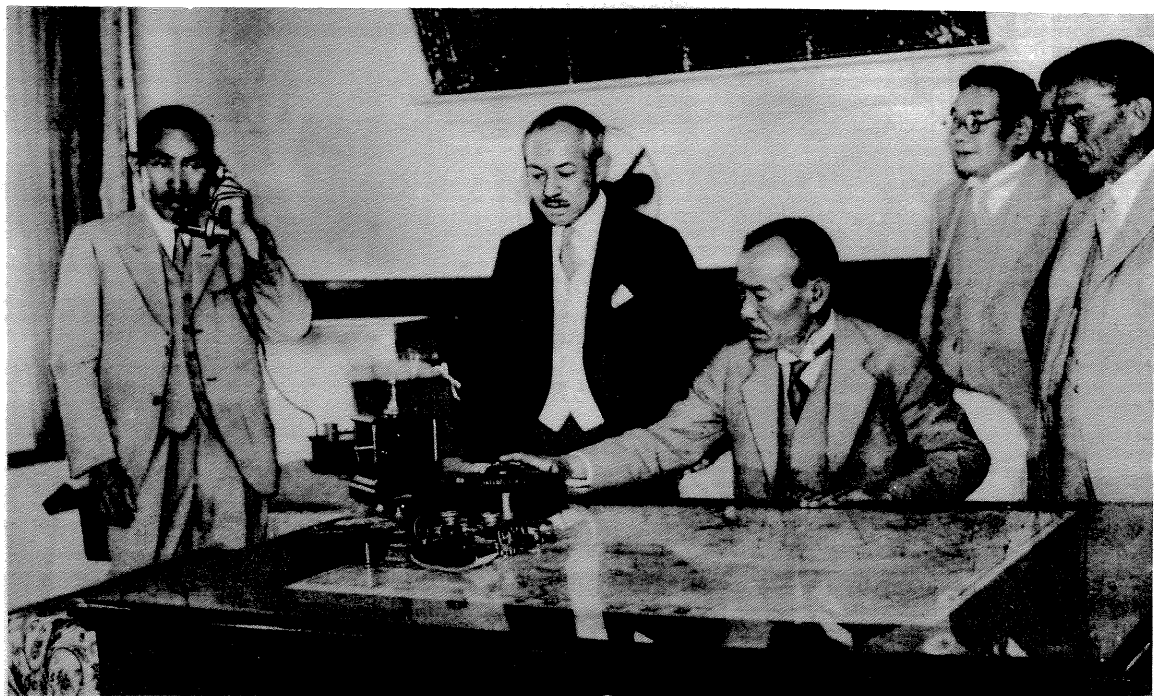
を持つて居りますから、両口からの坑通がえらい喰ひ違ひをする等とは、毛頭考へて居りませんけれども、萬一と云ふこともあります。現場に立會つた兩口測量の責任者、齋藤、富田兩技手の緊張も無理はありません。三島口からのボーリングの音が薄い切端を通して、ドツドツと響いて來ます。鑿が一刻一刻と近づいて來る様です。突然左下の方向の壁面が震へ出しムクムクと、より上つて來るかと思ふ間に、突如細い鑿光が、グツト顔を出しました。期せずして萬歳の聲が起りました。早速鑿を抜きその跡に二吋鐵管を、さしこみますと、もう御互に話が出來ます。鐵管を通じて熱海から三島口へ盛んに風が吹きます。心よい風です。覗いて見ると向ふ口の灯がちらちらと見えます。十六年の暗を貫く曙光です。

残尺三十呎のつもりでボーリングをやつた處、意外にも十七呎しかありませんでした。これにも聊か面喰ひましたが、翌十八日に最後の五呎を残すまで掘り進め、愈々翌十九日最後の發破に大臣のベル一押しを待つことになりました。

十九日午前十時半、最期の爆發に立會ふべくトンネルに這入ります。熱海口の一行は來賓として招待した、元副總裁吉川阪次郎始め那波光雄、舊所長青木勇、中村謙一、楠田九郎、川口愛太郎、元技師瀧山與、近藤鐵太郎、箕浦戒二、福島龍八、伊東孝治

工事課長竹股一郎、工事課技師星野茂樹、同廣田孝一及平山所長、岡野技師、有馬東口詰所主任技師其他等で、新聞記者約三十名は鳥居屬引卒の下につぎまします。三島口は元技師橋本哲三郎、建設局工事課技師宮本保、石川西口詰所主任技師以下勇躍して入坑します。請負人側では熱海口、鐵道工業會社の元締菅原恒寛、三島口、鹿島組の元締鹿島精一兩氏も加はります。一行は十一時現場に到着しました。

熱海口北側水抜の奥端に松板のテーブル腰掛が設備され、大臣以下寄贈にかゝる菰冠りが五六樽竝べられてあります。北側水抜から南側水抜への聯絡坑に大臣室直通の信號受信設備及び電話が据ゑ付けられて居ます。其の前に前記諸名士の席が設けてあります。十一時十五分所長は直通電話で大臣室の堀越計畫課長を呼んで用意萬端整つて居りますと報告し、尙ほ大臣室の時計と現場の時計とを合せました。「それでは十一時三十分を待ちます」所長の電話が切れると參列者一同時計を見て一層緊張する。新聞記者が一寸でも前へ出て状況を執らうとあせる。幸に天井から落ちる水はありませんが、足下には清水が踝を溲する程に流れてゐます。待つこと暫し、十一時三十分、ブーと大臣室からの合圖ブザーが鳴り出しました。一同の面にはさつと紅潮がさします。所長は莞爾と、スキツチの箱に近づき、ハンドルをとつてグツト、スキツチを入れる。瞬間ドーンとダイナマイトの音がする。有馬技師は直に工事三名を連れて爆破現場に馳せ付けました。星野技師が續く、煙硝は坑道をゆるく流れて來ます。今迄清らかな足下の水が赤く濁つてくる。一同はうまく開いたか、どうか一抹の不安があります。調べに出かけた有馬技師はまだ歸つて來ない、所長と岡野技師が報告を待ちきれない様な焦燥の氣を肩字に表はし、この間十五分、何と書いて



大臣室に於ける貫通の爆發スキツチ

いいか、其場の空氣を現はす適當な文句がありません。やがて水煙をあげて有馬技師がつかつかと平山所長と岡野技師の前に現はれて、不動の姿勢で「無事貫通いたしました」と力強い一語、「御苦勞」と所長の言葉、皆眼には涙を一杯ためてみました。

所長は直に大臣室の堀越課長を通じて無事貫通せる旨を報告しますと、大臣は電話口に出て、所長に左の言葉を送られました。

「本工事着手以來約十六箇年の歳月に互り世界的且歴史的難工事と稱せられたる丹那隧道が今日茲に開通を見るに至りたるは當局大臣として誠に歡喜に堪へませぬ。此成果を擧ぐるに就て多年の間實際の局に當れる幾多の技術者並に従事員諸君の堅忍不拔の精神と絶大無邊の努力に對して更めて深厚なる敬意を表する次第であります」古川元副總裁は直ちに電話口に立ち、大臣に

「私は古川です、計畫者の一人として、此のトンネルの完成には、最も責任を感じて居るものであります。今日此の貫通の現場に立會ひ、衷心から御喜びを申し上げます」
と感慨深い祝辭を述べられました。

列席者一同の喜びは緊張さのとけると共に、爆笑、歡聲の渦であります。貫通箇所は幅三尺上部高二尺程ありました。三島口からは石川技師始め宮本、橋本、鹿島氏等が續々とやつて來ます。感激の握手が交されます。鏡をぬいての祝宴に、山も砕けよとの萬歳が轟きます。